

センパイの研究のルーツにせまる不定期情報誌

07
2026.08

Roots

今月のテーマ

利活

いまある可能性を見つめ直し、より活かせる価値へと導く

システム科学技術研究科
総合システム工学専攻
修士課程 1年
成田 明音 先輩

システム科学技術研究科
生物資源科学専攻
修士課程 1年
大出 雄一 先輩

[Enhancement]



RO

ONE DAY

PM 3:10

ANOTHER COVER

図書館にて

秋田県由利本荘市／秋田県立大学本荘キャンパス

CONTENTS

ISSUE **07** | 2026.08

今号のテーマ

利活

新しいものを生み出すだけが研究ではない。すでにある資源や技術、仕組みに目を向け、より活かせる形へ導くことも未来を拓く力になる。地域の木材資源をより活用すべく、地域にあった製造方法を材料学の視点から。人間にしか出来ない知的財産の創造を経営学やデジタルの力で支える。一見異なる対象に向き合う、2人の先輩の起源に迫ります。

SENPAI REPORT #14

10 建材で森と地域の可能性を拓く

生物資源科学研究科 生物資源科学専攻 修士課程 1年

大出 雄一 先輩



身近なところで大学の数学・物理・化学・生物シリーズ

08 木を科学すると、未来が見える

木材高度加工研究所

足立 幸司 教授

SENPAI REPORT #13

04 データの奥にある新たな関係性を探る

システム科学技術研究科 総合システム工学専攻 修士課程 1年

成田 明音 先輩



研究室紹介

14 ルーツの素

システム科学技術学部 経営システム工学科

サイバーフィジカルシステム研究室 (山口 高康 教授)

クラブ・サークル紹介 ◎只今絶賛部員募集中

16 ヲタ芸サークル

ROOTS

LET'S GO LEARN SENIOR'S BACK

AKITA PREFECTURAL UNIVERSITY 2026

「Roots (ルーツ)」とは、
「起源」のことです。

大学で日々研鑽している先輩が、
高校生の時、どうだったのか。
なぜ今、その研究をしているのか。

大学という未知なる世界に対して、
高校生の皆さんが疑問や不安に思うことを
先輩方の「Roots」を知ることによって、
さらに魅力も伝えようと考えたことが企画のキッカケでした。

この冊子が、
秋田県立大学の魅力に気付くキッカケとなり、
高校生の皆さんにとっての
「Roots」となりますように。
願いを込めて。



※DLT (Dowel Laminated Timber)
木の板を並べて、棒状の木材でできた「ダボ」を差し込んでつないだ木質パネル。接着剤や金属接合具などを使用せず、木材本来の質感を活かしながら、環境配慮や資源循環への研究・活用が進められている建材。



※木材高度加工研究所
大学の研究機関として「木材」を冠する唯一の研究所。「森林資源を活用した持続的な資源循環型社会の形成」という目標で研究が行われている。

大出雄一

OIDE Yuichi

環境配慮型の建材で
森と地域の可能性を拓く
シンプルに簡単な工法で、そして循環させる



PROFILE

中学と高校は剣道部所属で、大学では竿燈会で差し手(竿担当のこと)をさせてもらってます。竹の扱いは任せてください! うっすら残る眉間のアザは、妙技会優勝(2025年)の勲章ということで、今年も頑張ります。秋田で日本酒も覚えまして、秋田県立大学で作っている日本酒「究」は毎年楽しみにしています。

接着剤にも金属にも頼らない 木材100%の新しい建材

僕は、環境に優しい建材であるDLT*の研究をしています。DLT、という言葉は聞き慣れないかもしれませんが、木の板を組み合わせて穴をあけ、そこに「木ダボ(Dowel)」と言われる木の部品をはめこんでつくる、極めてシンプルなものです。

昔は、大木を伐り建物を建てていましたが、今日、昔と同じように大木を得ることは簡単ではありません。そこで近年は、比較的小さな木材を組み合わせ建物をつくる技術が広がっています。DLTもその一つです。DLT

の最大の特徴は「木材100%」でつくること。木と木を木ダボで固定するので、釘などの金属を使用せず、接着剤を使わないためシックハウス症候群など、化学物質による影響がありません。天井や壁、家具など、様々なところで活用されはじめています。2024年の能登



半島地震の後には、DLT製法で建てられた仮設住宅が話題になりました。環境負荷が低いだけではなく、工程がシンプルで短期間のうちに施工することもできるDLTは、今注目が集まっている新素材なのです。

地場産の木を、地域の手で活かす DLTを広めるために

ヨーロッパで考案され、世界に広まったDLT。海外では大規模な工場で生産されることも多いのですが日本国内では製材所や中小工場などの現場でつくられています。必ずしも大がかりな機械を必要とせず、シンプル

13
SENPAI REPORT

生物資源科学研究科
生物資源科学専攻 修士課程 1年
栃木県／栃木翔南高校出身

な工法であることから、現場でつくられることが多いのですが、懸念点もあります。多くの場合、ハンマーを使用して木ダボを打ち込むのですが、例えば力が弱い人なら最後まで打ち込むことができなかったり、場合によっては曲がってしまったりします。だから僕は「どんな人でも同じようにDLTがつくれること」を目指し、DLTの工法についての研究を進めているんです。卒業論文では、様々な条件を変え、木ダボの打ち込み実験を行いました。欧州産のブナでできた木ダボを用い、ブナよりも柔らかい秋田スギの板に木ダボより0.5mm小さい穴を開け、機械を使って静かにゆっくりと力を加え続けて押し込みます。ハンマーで打つのは違い木材が割れたり曲がったりすることなくスムーズにつくることができ、安定した品質でDLTが仕上がります。

実験では、欧州産ブナの木ダボと秋田スギを使用しましたが、DLTは複数の木材を木ダボで接合して作るため、アイデア次第で、でこぼこした木や、曲がった木も組み合わせて強度を高めて使用することもできるんです。木の産地や育った背景を活かした、ストーリーの

ある建材づくりも可能です。

地域で育った木材を最大限に活用でき、その価値を地域に還元できるようになれば、持続可能な林業につながります。今後、修士論文では、DLTの材質をカラマツ、ヒノキ、スギの3種で試したり、木ダボも国産の広葉樹に変えたりと、条件を変えた時にどうなるのか、といったことをまとめるつもりです。この研究を通して、建材だけではなくDLTがいろいろなところで幅広く活用されるようになれば、と思っています。

足立先生との出会いが 木材への学びの扉を開いてくれた

今は木材について研究している僕ですが、実は、秋田県立大学には、生態系について学びたいと考えて入学したんです。学部生の頃は、生物環境科学科で自然の生態系について様々な角度から広く学んでいました。今の研究をはじめたきっかけは、学部3年生の時、足立先生の初めての授業でした。先生が電子レンジを教室に持ってきたんです。何が始まるのかとワクワクしました。先生は、電子レン



ジであたためた木材を、その場で曲げて、木の性質や曲木の技術について説明してくれました。木って面白いなあと、ぐっと心をつかまれました。先生との出会いがあったから、僕はこの木材高度加工研究所*へ進むことを決めました。今こうして先生のもとで学んでいられることが本当に幸せですね。

循環する素材としての「木」

建築を学ぶ人は、木を建材として建築構造全体を考えるとと思うのですが、僕は「木」を大きな自然のサイクルの一部であり、循環するもの、生物資源としてとらえています。この視点は、これまで生物環境科学科で生態系について先生方から学んできたからこそ身に





ついたもので、僕の強みだと思っています。DLTは、その製造工程はもちろん、解体した後も木材を循環させることを可能にします。木材を循環させることは、地域の資源を守ることに繋がります。小さなころから木登りをしたり、自然に親しんだり…。木のぬくもりや、木の良さを肌で知っていた僕が、DLTに惹かれ、研究テーマに選んだのは、それが大きな理由かもしれません。

秋田の地で木と向き合い これからの未来を見据える

秋田県立大学ではもう一つ、竿燈との出会いもありました。僕は栃木県出身で、竿燈の演技を見たのは新入生歓迎会の時が初めてでしたが、その迫力に圧倒されましたし、カッコいいな、自分もやってみたい、と竿燈会に入会しました。竿燈も竹を使いますし、提灯部分は曲げの加工がされています。竹のしなりや、持ち手の部分に、どんどんと竹を継ぎ高くていくことなど、竿燈には魅せ場がたくさんありますよね。昨年は、竿燈妙技会の大若団体自由演技でも優勝することができまし

た。優勝した時のセットは、自分でつくったものだったんですよ。そういう意味では、研究中也竿燈会でも、ずっと同じ「木」のことを考えていますね。

先生方をはじめ、友人関係等、周りの人にも恵まれました。授業や研究、アルバイト、それから竿燈と忙しい毎日ですが、本当に充実

しています。一日中大好きな「木」のことを考えているのが本当に楽しいです。

いろいろな未来を思い描いていますが、卒業後は、地元の近くの関東圏で働くつもりです。どんな職業であっても、ここで得た力、学んだ内容は確実に活かしていけると自信を持っています。

自然の循環サイクルとして シンプルにローテクを極めていく

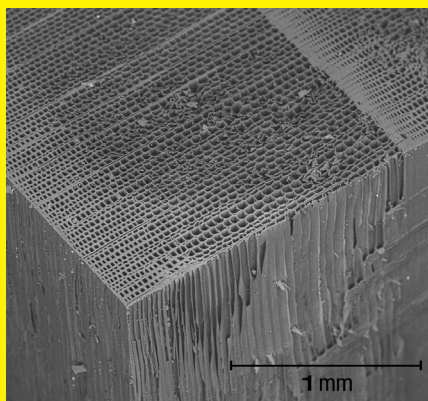


木を科学すると、

硬くもやわらかくもなれる木・・・

木は、柱や家具など、その硬さや丈夫さを活かして広く使われています。一方で、やわらかくして曲げ、その形を活かす使い方もあります。木は、硬いだけの材料ではないのです。木の幹の中には、根から吸い上げた水を運び、自分の体を支えるストロー状の組織が幹に沿って並んでいます。そのため、木は力を加える向きによって、強さや曲がりやすさが変わります。どの方向でも同じ性質を持つ金属やプラスチックとは異なる、木ならではの特徴です。

さらに、水分を含んだ木は、加熱して80℃以



スギ材をつくるストロー状の細胞

電子顕微鏡で見ると、スギは髪の毛よりも細いストロー状の細胞「仮道管」が、同じ方向に並んでできていることが分かります。この並び方が、木の強さや曲がりやすさに方向による違いを生みます。

上になると急にやわらかくなることが、科学的な研究から分かっています。秋田の伝統工芸である大館曲げわっぱは、こうした木の性質を巧みに利用した曲げ木の技術でつくられています。スギの薄い板を湯で温めた後に、折れないように力を調整しながら丸く曲げていきます。

私はこれまで、伝統的な曲げ木の技術に科学の視点から向き合うとともに、木を押し縮めて硬くする圧縮木材や、しなやかに動く木製パネなど、木の硬さややわらかさを引き出す研究を進めてきました。そこで得られた科学的な知識は、伝統技術の理解にとどまらず、加工方法の改善や新しい曲げ木製品の開発にも生かされています。現在も、木材を立体的な形へ変える三次元加工について研究を続けています。

いつでも形を変えられる、新しい「やわらかい木」

普通の曲げ木は、木を曲げたあと、その形を固定して使います。私は、完成したあとにも人の手で形を変えられる、これまでにない材料をつくれなかと考えました。そうして開発したのが「やわらかい木」です。

一枚の厚い板はなかなか曲がりませんが、薄い木は簡単に曲げられます。ただし、薄い板

を重ねただけでは、ばらばらになってしまいます。そこで私は、木を貼り合わせる接着剤に注目しました。普通の接着剤は、乾くと硬く固まります。一方、「やわらかい木」では、固まらずにゼリーのように動く接着剤を使います。木と木を離れないようにつなぎながら、重ねた層が少しずつずれることを許すのです。

「しっかり貼るための接着剤を、あえて固めない。」

この発想の転換によって、木全体がしなやかに形を変えられるようになりました。

やわらかい木は、手で押すと形が変わり、力を抜くと元に戻ったり、別の形に動かしたりできます。いすの座面や背もたれに使えば、座る人の体や動きに合わせて変形する家具をつくることもできます。さらに、木を折り重ねて、弾むように動く木製パネも開発しました。この技術は、実際の家具製品にも使われています。

研究では、材料をより硬く、強くすることだけが答えではありません。当たり前だと思われる仕組みを見直すことで、今までにない動きが生まれることがあります。「やわらかい木」は、接着剤は固めるものだという常識を反対から考えることで生まれました。



木の可能性を広げる「あきたもくまる」

秋田の森林資源と大学企業の技術をつなぎ、木材の新しい可能性を示す超小型電気自動車「あきたもくまる」。分野を超えた共同研究によって、車の内装や外装への木材利用を進めています。左は共同研究者の西村先生、右は筆者。



いつでも形を変えられる「やわらかい木」

薄い木を、固まらずにゼリーのように動く接着剤で貼り重ねることで、しなやかに曲がる木質材料を開発しました。手で力加えると形が変わり、座る人の体に合わせて動く家具などへの応用が期待されています。

未来が見える

木の常識を変え、未来をつくる

木は、家具や建物だけに使う材料ではありません。すでに自動車の床板や内装などにも利用が広がっています。では、木は車のどこまで使えるのでしょうか。

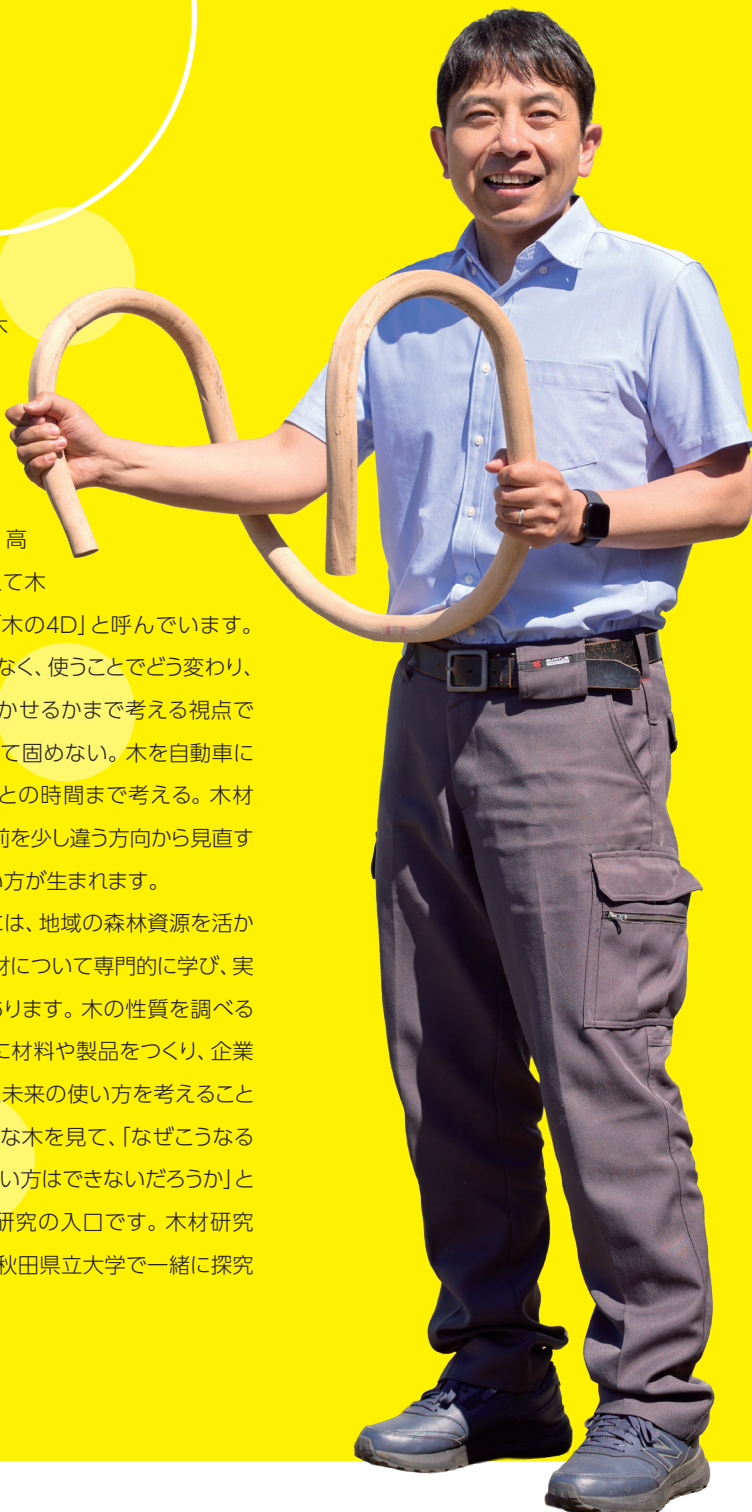
私たちは、秋田の木や、木からつくった新しい材料を、小さな電気自動車に取り入れた「あきたもくまる」を開発しています。木は軽く、加工しやすく、色や木目、手触りも楽しめる材料です。木の特徴を科学し、使い方を工夫すれば、自動車の内装や外装にも新しい役割を持たせることができます。

「あきたもくまる」は、木を使った車を完成させることだけが目的ではありません。一台の車をきっかけに、森を育てる人、木材や自動車の技術者、デザイナー、学生など、これまで接点の少なかった人たちが集まりました。秋田の森林資源と、大学や企業の技術が会合うことで、新しい研究やものづくりが生まれています。

木は、製品になった時点で変化を終える材料でもありません。光に受けて色が変わり、使うほど艶や手触りが変化します。修理して長く使ったり、役割を終えたあとに別の形へつくり替えたりすることもできます。

私はこれまで、木で立体的な形を生み出す三次元加工に取り組んできました。さらに今は、縦、横、高さに「時間」を加えて木を考えることを、「木の4D」と呼んでいます。形をつくるだけでなく、使うことでどう変わり、どのように長く生かせるかまで考える視点です。接着剤をあえて固めない。木を自動車に使う。完成したあとの時間まで考える。木材研究では、当たり前を少し違う方向から見直すことで、新しい使い方が生まれます。

秋田県立大学には、地域の森林資源を活かすため研究と、木材について専門的に学び、実験できる環境があります。木の性質を調べるだけでなく、実際に材料や製品をつくり、企業や地域の人たちと未来の使い方を考えることができます。身近な木を見て、「なぜこうなるのだろう」「別の使い方はできないだろうか」と感じたら、それが研究の入口です。木材研究の奥深い世界を、秋田県立大学で一緒に探究してみませんか。



北試験棟



耐火試験棟

秋田県立大学 木材高度加工研究所

森林管理から木質材料、木造建築までを一貫して研究し、木材の価値を高める技術を創出。実大の加工実験用装置あ耐久試験設備も備えています。教育や地域企業との連携を通じて、秋田から次世代の木材利用を支えています。

木材加工学・木質材料学 足立 幸司 教授

愛知県名古屋出身。静岡大学、京都大学大学院、東京大学で木材や森林資源の利用について研究し、2012年に秋田県立大学へ着任。木を曲げる、硬くする、やわらかくする、燃えにくくするなどの加工技術を研究し、伝統工芸、家具、自動車部材などの開発を企業や地域と進めている。



※IP (Intellectual Property: 知的財産)
アニメ分野では、キャラクター
や物語、世界観などがIPとな
り、商品展開や配信、イベント、
ライセンス事業などを通して
継続的な価値を生み出してい
く。近年は、どのように育て、広
げ、価値を継続させていくかと
いう視点が重視されている。

成田 明音

NARITA Akane

人にしかできない創造を
未来へつなぐために。
デジタルの力で未知の組み合わせを探る



PROFILE

高校時代は的中する爽快感が好きで弓道にのめり込みました。コロナ禍の影響で最後の大会は叶わなかったため、もう一度弓を引けたらと画策中。普段は“超絶インドア派”で、大好きな『ちいかわ』はYouTubeで毎回チェックしています。秋田はお酒が美味しいので、静岡にいる両親を秋田へ招いて、一緒に楽しみたいです。

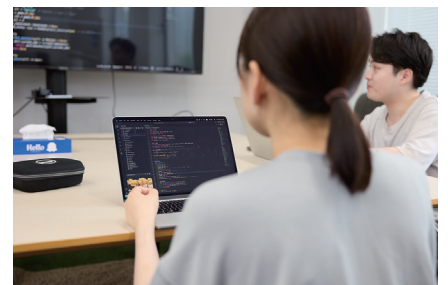
私の研究は『タイアップ提案AIによる制作会社主導型IPビジネス創出』です。私たちに身近なお菓子や飲み物、文房具など、世の中にはいろいろな商品がありますが、時々これらの商品のパッケージにアニメのキャラクターがプリントされていたり、CMIに起用されていたりしているのを見たことがあると思います。好きなキャラクターだと思わず手にしてしまいますよね。現状、多くの場合は、企業や広告制作会社などがアニメ制作会社に企画を持ち掛けて成立した場合がほとんどかと思うのですが、私は、アニメ制作会社サイドから企画を持ちかけることのできる仕組みを作りたいと考えました。

研究に使うのはAIを動かす高性能サーバとサーバを遠隔から操るノートパソコン。複数のAIを使い分け、試行錯誤を重ねながら、少しずつ仕組みを形にしてきました。

データの奥にある意外な関係性 見出されていない共通点をAIで結ぶ

AIと聞くと、ChatGPTやGeminiなどを思い浮かべる人が多いかもしれません。こうしたAIの多くは、LLM（大規模言語モデル）という、たくさんの文章から言葉の使われ方を学ぶ技術を基盤にしています。私はLLMも使用しますが、自らのアイディアを社会で役立つシステムとして具現化するために、Cloud

codeやCodexといった開発支援ツールも多用しています。学部で取り組んだ卒業研究では、アニメと商品がどんなもので、どこが似ているのかに注目し、意味的内容が近いもの同士をつなげることと、過去にどんなアニメがどんな商品とタイアップしたのかをまとめる仕組みを開発しました。具体的には、アニメ



14
SENPAI REPORT

システム科学技術研究科
総合システム工学専攻 修士課程 1年
静岡県／磐田南高校出身

メを見ている年代、アニメのストーリー、登場するキャラクターなどの特徴や、今世の中にある商品の購入年代やターゲットを照らし合わせるのですが、その後、大学院での研究で似ているものだけではなく、意外性のある組み合わせこそ経済的なインパクトがある事を発見しました。この内容は今年の11月にアメリカで行われる経済学会の国際会議で発表します。実は海外へ行くのは初めてで、パスポートの取得もこれからなので、忙しくなろうです。

大好きなアニメが私の原点 相談しながら進められる研究環境

3年生になって、研究テーマに悩んでいた時に、指導教員の山口高康先生から「あなたの好きなことや強みを掘り下げてみたら?」とアドバイスを貰い、アニメにまつわるテーマに取り組もうと決めました。アニメを見ている時間が、小さい頃から私の一番幸せな時間です。『ワンピース』『ワールドトリガー』『ダイヤのエース』などのアニメが好きで、一日中見ていることもあります。

山口高康先生からはAIの技術をご指導いただけていますが、自ら希望して嶋崎善章先生の下で経済の視点も学んでいます。それぞれの専門分野の強みを掛け合わせて、世界初に挑戦できるこの環境にワクワクしています。

この研究を通して、私はアニメの制作会社が十分な制作資金を得られるようにしたいと考えています。宣伝や資金獲得にかかる人的・時間的コストを減らし、創作にあてる時間が増えれば、これから先も素晴らしいアニメ作品が次々と生まれるでしょう。現在、AIを駆使することでアニメをつくるハードルは下がっていますが、人を感動させるアニメは、やはり人にしかつくれないと思います。

パソコン初心者から、AI研究へ。 戦略的に取り組むことで できることを広げていく

こんな風にAIを活用した研究をしていると、昔からパソコンに詳しくたのでは?と言われることが多いのですが、実は大学に入るまで、本格的にパソコンに触ったことはあ



りませんでした。それでも今、AIを活用した研究に取り組んでいるのは、新しい分野に出会ったとき、何を学ぶべきかを考え、順序だてて身に付けていくことが得意だからです。私の研究室ではパソコンを英語モードで使うように教えられます。まずはパソコンからのエラーメッセージを英語で解釈できるように努めます。すると、英語で書かれた論文やコンピュータ関連の情報にも興味が湧くようになり、やがて最新のAIの技術を学ぶことができるようになります。大学院生になり、学部生にパソコンを教えるティーチングアシスタントを務めた時に、人に教えることができるくらい力がついていると実感しました。発表資料作成にあたっては、スライドの比率やデザ



インなど、とことん突き詰めて学びました。おかげで「難しいAIの技術を誰が見ても分かりやすく表現したね」とほめられることが多いです。

研究を進めることは簡単ではありません。なぜなら、研究は、誰かが示した答えをなぞるのではなく、自分なりの方法を見つけなければならないからです。加えて、近年注目を浴びているAIの技術は日進月歩なため、新しい知識を取り入れながら、どう工夫すれば自分の研究が社会で役立つのかを見定め続ける必要があります。だからこそ、自分なりの戦略を立てて、一步步研究を前に進めていきたいです。将来は、この戦略的に物事を進める力とAIの技術を活かし、ITコンサルティングの分野で社会課題の達成に携わりたいと考えています。

大学生活を振り返って

秋田県立大学は、先生との距離が近く、学生同士の関わりも深いです。特に、システム科学技術学部は女子が少ないので、女子の結束力は強かったです。私が過ごした本荘



キャンパスには様々な思い出がありますが、一番のお気に入りのスポットは図書館で、よくパソコンを持ち込んで夢中になって勉強していました。

今から5年前、秋田に初めて来た日のことは忘れられません。私は静岡出身で3月の終わり頃といえば春のイメージだったので薄着で来てしまったのですが、秋田はまだ雪が残っていて驚きました。大学に入った当初は、まさに寒さとの戦い。あたたかい地域の方は

しっかりと寒さ対策をして秋田県立大学にいらしてください。

最後に、高校生の皆さんには、今のうちに地元の友達とたくさん交流することをおすすめします。私の高校時代はコロナの影響もあり、もっと思い出をつくりたかったと思うからです。そうした思い出をつくることで、早いうちに自分の好きなことや強みを言語化することができ、高校卒業後に会える新しい人たちとの交流も楽しめるようになると思います。



研究室紹介

人工知能の可能性を探り、人と人との絆を深める研究室

【経営システム工学科】サイバーフィジカルシステム研究室 高橋 夢叶 先輩(秋田県／由利高校出身)

AIで人と地域を支える

サイバーフィジカルシステム研究室(CPS研)の高橋夢叶です。CPS研には3つの研究分野に取り組むチームがあり、私は『相互にメリットのある社会を創るチーム』のリーダーを務めています。CPS研では、一人ひとりがオリジナルの研究を立ち上げるのですが、学年を越えた人のつながりを大切に人工知能(AI)の可能性を探っています。自分の興味や関心を掘り下げて新たな研究に取り組もうとする学部生から、国際会議での発表経験がある大学院生までが一つのチームとなり、最新の技術記事や学会論文の内容を共有し合い、それらを社会に生かすアイデアを議論しています。

私は人が集い、楽しい時間を共有するひとときが好きで、そうした場を生まれ育った由利本荘市に残したいと思い、地域イベントを研究対象に選びました。具体的には、業務やノウハウ

が一部の経験者に集中する属人化という問題を解決する研究です。AIを用いて、運営資料や担い手が培ってきた知識を整理し、分かりやすく提示するシステムを構築することで、特定の経験者に頼りすぎない運営を目指しています。現場で本当に必要とされるシステムを考えるため、地域イベントの実行委員として、会議や準備、当日の運営に関わりながら研究に取り組んでいます。

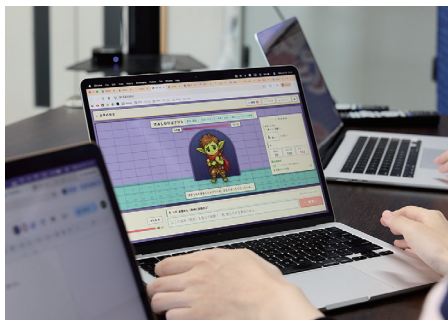
失敗が研究を前に進める

研究を進める中では、思うようにいかないこともありました。特に大きな失敗となったのが、地域イベントで行った実験です。当日は5時間にわたり、来場者にアンケートへの協力を呼びかけ続けました。しかし、協力者は8人にとどまり、思うような成果につなげられず、自分の実力不足を痛感しました。この経験をきっかけに、

失敗したことをそのままにせず、原因を言語化し、次の挑戦に生かすようになりました。その後も試行錯誤を重ねる中で、少しずつ成果が生まれ、今では、研究に面白さを感じ、楽しみながら取り組んでいます。

支え合いが研究を育てる

ここまで研究を続けられたのは、メンバーとの支え合いがあったからだと思います。同級生とは、行き詰まったところを互いに相談しながら、日が暮れるまで一緒に作業しました。先輩には、真夜中に画面を共有し、オンラインで相談に乗ってもらいました。私も支えてもらうだけでなく、誰かが悩んでいるときには一緒に考え、自分の意見を伝えています。納得できるまで自分の研究に向き合い、行き詰まったときには互いに支え合う。それが、この研究室で過ごす私の日々です。



2020年に開設され、これまで48名の学生を受け入れてきました。私の研究の根底にあるのは、企業で培った「技術を社会に役立てる」という姿勢です。画像や文章の意味を理解するマルチメディア技術、大規模なデータを高速に処理するビッグデータ技術、個人のプライバシーを保護しながら社会を調査する情報セキュリティ技術を研究してきました。現在は、社会を効率よく駆動させるサイバーフィジカルシステムの研究に取り組んでいます。

研究室では、アイデアを出し、それを人に提案することを最も大切にしています。コンピューターが好きな学生が多く、互いに教え合いながら自由な発想でソフトウェアやシステムを試作しています。研究の話だけでなく、日常のこともよく語り合う明るい雰囲気、お茶とお菓子を囲みながら議論が盛り上がることも珍しくありません。科学・技術・社会の接点にあるテーマを扱い、学生一人ひとりの強みを伸ばしながら、地域や社会に貢献できる人材を育成しています。

SUPERVISOR

総合情報学
山口 高康 教授
YAMAGUCHI Takayasu

電気通信大学大学院で博士後期課程を修了。2001年4月から2020年3月までNTTドコモにて、モバイルカメラを用いた対象判別技術、iモード検索アルゴリズム、モバイル空間統計の研究開発に従事。2020年4月より 秋田県立大学 システム科学技術学部 教授に着任。モットーは「素人のように発想し、玄人のように実行する」

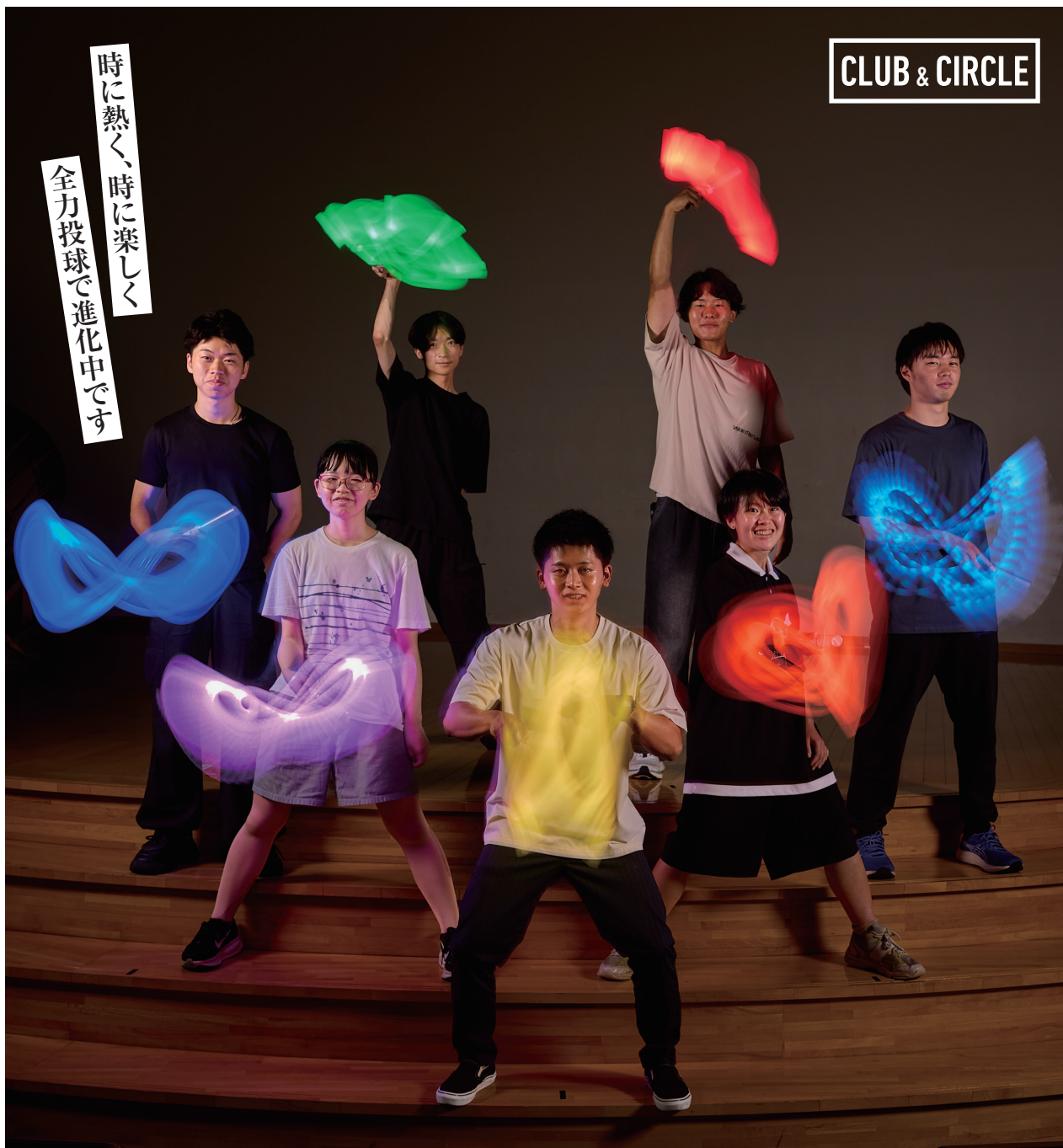




CLUB & CIRCLE

時に熱く、時に楽しく

全力投球で進化中です



クラブ・サークル紹介◎ 只今絶賛部員募集中

ヲタ芸サークル ～ヲダ君に恋は難しい～

推し活系

全力投球系

全国大会系

ダンス系

サイリウム系

「ヲタ芸」というものをご存知でしょうか? 「名前は聞いたことがあっても、詳しくはよくわからない」という方が多いかもしれません。元々ヲタ芸とは、アイドルやアーティスト、それぞれの「推し」に向かってサイリウムを振って応援するものでした。それが昨今、より洗練され、美しく、速く、そしてシンクロさせながら、オタクの魂を表現するものへと進化を遂げたのです。我々のサークルでは、そんなヲタ芸の技を磨き、「時に熱く、時に楽しく、全力投球」をモットーに活動しています。アニメ、漫画、ゲーム、アイドル、VTuberなど、ジャンルは問いません。オタ芸をガッツリやりたい方はもちろん、ヲタ芸はやらずとも、互いの趣味を否定せずに共有できる「心地よい居場所」にしたいと考えています。

INFORMATION

活動場所：秋田キャンパス講堂
活動時間：毎週水曜日18時～20時
所属人数：9人(男子：7人、女子：2人)
主な活動：オタ芸の技、演技、オタ活等

代 表 者：小田 陽介
メー ル：b27e011@akita-pu.ac.jp
☎ apu.otagei27



少しでも気になった方は、ぜひ一度見学にお越しください。メンバー一同、心よりお待ちしております!